

# 海事資料 FAX 短信

Vol.121 2007.4.15

(財)日本海事広報協会・海事情報部 TEL 03-3552-5035 FAX 03-3553-6580  
ホームページアドレス <http://www.kaijipr.or.jp/> E-mail [jo-ho@kaijipr.or.jp](mailto:jo-ho@kaijipr.or.jp)

このFAX短信は、海運、造船、港湾、港運など海事関係団体が、最近発行した機関誌や海事関係資料、海事団体のイベント情報などをご紹介します。機関誌や海事資料は、当会海事情報部で供覧しておりますので、ぜひご利用下さい。

## \* 機 関 誌 ・ 広 報 誌 \*

内航船員(海技者)の育成

「国土交通」3月号

運輸振興協会

最近、内航業界で雇用意欲が高まり、(独)海技教育機構が運営する海上技術短期大学校(2校)と海上技術学校(5校)には多数の求人が寄せられている。同機構では、静岡市清水の本部に船員職業紹介所を設置、就職活動のサポートに注力している。03-3221-8432

港湾の管理運営を巡る新しい動き

「港湾」3月号

日本港湾協会

昨年6月、海洋汚染防止法が改正され、船舶がばら積み輸送する有害液体物質を取り扱う陸上保管施設や係留施設に対し、流出事故が発生した際の緊急措置マニュアル「有害液体汚染防止緊急措置手引書」の据置きが新たに義務付けられた。03-5549-9575

安全航海いろはかるた

「旅客船」第582号

日本旅客船協会

元東京商船大学教授の橋本進氏の「安全航海いろはかるた」(後編)を掲載。例えば、「む」は「向かい波には厳重注意」。スラミングやプロペラの空転が起き易いので、波浪を船首から受けしないよう針路を20~30度変えて保針、回転数を調整し対応を!03-3501-6766

「はじめての海の科学」を刊行

「BlueEarth」3-4月号

海洋研究開発機構

最近の中高校の教科書では、「海」をテーマに触れることは殆ど無く、受験科目との関係で「地学」を選択する生徒も減少。同機構では、この状況を踏まえ、海洋の魅力や知識が写真や図版で判り易く学べる「はじめての海の科学」を刊行。045-778-5440

「マリツ インゾア」No.723

日本船舶機関士協会

マリツ インゾアにとって顧客満足とは? 03-3264-2518

「海っ子」第567号

日本海洋少年団連盟

海に親しみ海に学び海で鍛えよう 03-3553-1818

海事資料FAX短信のバックナンバー(2年内作成のもの)は、弊協会ホームページの書籍販売欄にあります。

新たな海洋立国を目指して

「Ship&OceanNewsletter」No.158 海洋政策研究財団

わが国の海洋政策のあり方について、平成18年4月から10回、海洋基本法研究会による議論が行われ、「海洋政策大綱」と「海洋基本法案の概要」がまとめられた。研究会座長の石破茂衆院議員に寺島紘士同財団常務理事が今後のビジョン等をインタビュー。03-3502-1828

十管本部に救出のお礼 - 当て逃げ被害の「幸吉丸」

「海上保安新聞」3月8日号

海上保安協会

鹿児島県種子島近海で貨物船に当て逃げされ沈没、74時間漂流し救助された宮崎県日南市のマグロ漁船・幸吉丸の是澤幸広船長らが十管本部と救命いかだを発見した巡視船「おおすみ」を訪問、救助のお礼を述べた。海難防止講習会への参加が役立った。03-3297-7580

「みなと」と観光 岩国市(由宇港)

「観光」4月号

日本観光協会

由宇のまちは廻船業で発展した。海岸線は過去、高潮や越波による浸水被害を受けたため、山口県は平成10年、浸水対策として排水機場を、越波対策として人工海浜の整備を開始、17年7月事業の一部が完了し、潮風公園「みなとオアシス」がオープンした。03-5205-0250

「海難と審判」第155号

海難審判協会

特集 - 霧中での見張り

03-3512-8140

「日本倉庫時報」第1157号

日本倉庫協会

経産省電子アクティブ 国際標準化に動く03-3643-1221

「SEDA」Vol.4 船員教育振興協会  
 新たな旅立ちへ感動を呼ぶ"登檣礼" 03-3288-0991  
 「Marinevoice21」Vol.254 日本埋立浚渫協会  
 名作が生まれた港・波浮港 03-5549-7468  
 「ドックマスター」第124号 日本船渠長協会  
 台風による海王丸遭難時の気象解析 045-661-1910

「品管時報」Vol.328 日本船舶品質管理協会  
 スパ・エコシップの開発・普及 03-3253-6201  
 「Blue vague」Vol.18 東北地方整備局空港港湾部  
 東北を創る人々「あおもりみなとクラブ」022-716-0003  
 「日造協」第391号 日本造船協力事業者団体連合会  
 安全衛生管理の伝承を推進 03-5510-3161

## \* その他海事資料 \*

### 船員災害疾病発生状況報告(船員法第111条)集計書 国土交通省海事局運航労務課

本集計書は、船員法第111条に基づいて船舶所有者から報告された災害・疾病発生状況ととりまとめたもの。船員の災害・疾病の実態を明らかにするとともに、船員災害防止対策に活用できるよう編集したもの。調査対象は、船員法第1条に規定する船員で、期間は平成17年度中。報告対象は、期間中に船内及び船内作業に関連した場所で発生した休業3日以上、の災害及び疾病(死亡及び行方不明を含む)。

同集計書によると、災害・疾病により3日以上休業した船員は、延べ1,790人、船員千人当たりの発生率は22.0で、前年度に比べて人数で8人減少したものの、発生率では0.4増加した。これを災害と疾病に区分すると災害は、921人、発生率で11.3となっており、前年度に比べ人数で66人減少し、発生率では0.6減少した。疾病は、869人、発生率で10.7となっており、前年度に比べ58人増加し、発生率で0.9増加した。災害・疾病発生の推移をみると、10年前の平成7年度と比較してみると、災害は人数で1,323人、発生率で8.0%減少し、疾病は人数で1,776人、発生率で12.0%減少した。

## \* 海のイベント情報 \*

### 第18回人と海のフォトコンテスト 「マリナーズ・アイ」写真募集

その(財)全日本海員福祉センターでは毎年「海の日」、「海の月間」行事として、人と海のフォトコンテスト「マリナーズ・アイ」を開催しているが、今年も国土交通省、神戸運輸監理部の後援と海事関係11団体の協賛を得て第18回展を開催する。

趣旨：海に働く人たちのさまざまな姿、海、船、港、海岸などをテーマにした写真作品を募集し、応募作品の中から優秀な作品を展示することによって、国民各層に、生活生産の場としての海で働く人たちへの理解を深めていただきたいとの願いを込めて、広く一般から作品を募集。

主催：(財)全日本海員福祉センター

メインテーマ：「海で働く人たち」

応募資格：限定なし

題材：海で働く人達、海、船、港、海岸など

種類：モノクロ、カラープリントに限る

送付先(問合せ先)：〒106-0032 東京都港区六本木7-15-26 (財)全日本海員福祉センター  
 マリナーズ・アイ係(TEL03-3475-5390)

締切：平成19年6月15日(金)必着

表彰：大賞(1名)賞状及び賞金 20万円

推薦(2名)賞状及び賞金 各5万円

特選(4名)賞状及び賞金 各3万円

優秀賞(8名)賞状及び賞金 各2万円

佳作(103名前後) 賞状のみ

全日本海員福祉センター会長賞(1名)

賞状及び賞金 2万円

特別賞(1名) 賞状及び賞金 2万円

\*大賞～佳作の対象者は無限定。全日本海員福祉センター会長賞と特別賞の対象者は海事産業で働く人又はそのOB・OG

審査員：丹野章(協)日本写真家ユニオン理事長

小松健一(日本写真家協会会員)

及び主催団体・後援団体から1名

展示：大賞、推薦、特選、優秀賞及び主催団体会

長賞の計17点と佳作103点の合計12

0点を予定(本展：東京芸術劇場ほか)

### 「20世紀の産業遺産」初代南極観測船『宗谷』保存募金について

船の科学館では、初代南極観測船・宗谷を、日本財団からの支援を受け昭和54年より日常的な整備はもとより定期的整備工事を行いながら保存・展示しているが、建造から60余年が経過し、大規模な検査改修工事が必要となった。同館では、国民的財産である『宗谷』を守るため、募金の協力を呼び掛けている。

問い合わせは・・・TEL03-5500-1110 船の科学館総務課まで

